

第47回（2020年度）地域安全学会研究発表会(秋季)に参加しました（2020/10/30-11/1）

テーマ：災害科学
場 所：オンライン

10月30日（金）～11月1日（日）の3日間、オンラインにて地域安全学会の秋季研究発表会が開催されました。地域安全学会は、研究者、技術者、国や地方自治体の実務家などによる、自然災害や人為災害を対象として地域の安全問題に関する研究を行う学会です。

当研究所からは、地域安全学会会長として村尾修教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）が開会冒頭挨拶を担当し、越山俊一教授（災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野）と佐藤翔輔准教授（人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野）がセッションの司会をつとめ、8編の査読論文（うち、筆頭著者1名）と、1編の一般論文の研究発表が行なわれました。査読論文発表会では佐藤翔輔准教授が、一般論文発表会では杉安和也助教（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）が登壇しました。

著者および論文名は次の通りです。

【査読論文】

- 佐藤翔輔：中学生が行う被災体験の聞き取り学習に関する分析：階上中学校における東日本大震災を対象にした災害伝承の学習事例
- 門倉七海、佐藤翔輔、今村文彦：発災から50年経過した水害被災地の記憶と備えの実態分析：1967年羽越水害をまつりで伝承する新潟県関川村
- 渡邊勇、佐藤翔輔、今村文彦ら：東日本大震災の教訓を伝わっているのか—東北大学 MOOC 受講者を事例対象にした評価の試み—
- 池田正幸、佐藤翔輔：東日本大震災アーカイブの活用実態に関する調査分析
- 秋元康男、佐藤翔輔ら：被災自治体の災害対応の課題・教訓を継承するための記録の作成及び訓練・研修の実施に関する実態把握
- 新家杏奈、佐藤翔輔、今村文彦：思考変化と移動経路を組み合わせた津波避難行動過程の分析：東日本大震災発生時の気仙沼市階上地区の事例
- 松川杏寧、佐藤翔輔ら：固定効果モデルを用いた生活復興感研究—2014・2015・2016・2017年名取市現況調査パネルデータを用いて—
- 川見文紀、佐藤翔輔ら：被災前の世帯の社会的脆弱性がすまいの再建に与える影響

【一般論文】

杉安和也ら：2017年インドネシアアグン山噴火における避難所住環境に関する考察

著者名は、筆頭著者と当研究所構成員（下線）のみ記載。

文責：佐藤翔輔（人間・社会対応研究部門）